

じん けんしゅうかん と く 人権週間の取り組み

じんけんけいはつ てん (1) 人権啓発パネル展

にちじょう なか ぶらくさべつ
「日常の中にある部落差別」

じんけん がつ にち がつ にち
人権センター：12月17日～1月15日



マイクロアグレッションってなに？

マイクロアグレッション
とは…

にちじょうせいかつ なか とくてい
日常生活の中で、特定の
ひと たい さべつ へんけん
人に対する「差別・偏見・
むりかい ふく ちい
無理解などを含む小さな
こうげき いみ
攻撃」を意味するんだよ。



(2) DVD「めぐみ」放映



～パネル展の感想～ 一部紹介

※可能な限り原文のまま掲載しています。

●私も同和地区出身です。子どもには結婚するとき相手に同和地区出身と言
とかなくてはいけないと伝えた。このパネルを見てちゃんと教えなくてはなら
ないと思った。私は一回失敗しているから！子どもには失敗してほしくない！
なぜ、こんな心配しなくてはいけないのかな？なんで部落差別とかあるのかな！！

●今回のパネルは、一つひとつが
グサッとくる内容でしたね。日頃
自分では思いもしないことで
が、そのこと自体が人権について
考えていなかったんだなと反省
しました。



れい わ ねん ど だい かい じん けん どう わ もん だい ち いき こん だん かい 令和6年度 第51回 人権・同和問題地域懇談会

第51回人権・同和問題地域懇談会(以下、地域懇談会)は、10月1日～11月3日の
日程で町内34行政区32会場にて、DVD視聴と懇談という形式で実施しました。

今年度のテーマを「同和問題」と設定し、7月に開催した市民講座と関連した形をと
りました。継続して町民の皆さんと同和問題について考えることができました。

(1) DVD 及び懇談会の内容について

DVD「同和問題未来に向けて」は、結婚に関する偏見や部落差別・同和問題に対する過去から今に至る取り組みなどの場面がありました。「19分の視聴時間を通して、部落差別の歴史や特別措置法について理解を深めるとともに現実に差別が残っていることが分かった」「両親や周りから聞いたことはあったが、意味や施策など今までよく分からなかった」ので、今回の懇談会を通して勉強することができた」などの意見が多くありました。

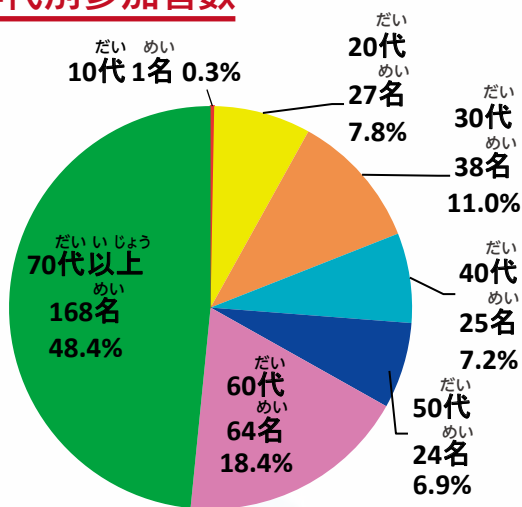
(2) 参加状況について

今回の地域懇談会の参加者は356名で昨年度より43名減でした。残念ながら、昨年度の「高齢者の人権」に比べ、「同和問題」は自分事として捉える人が少なかったように感じました。

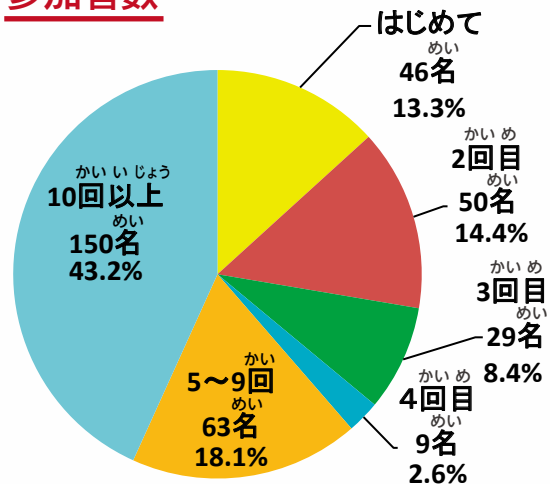
「地域懇談会」アンケート結果

参加者数356名 アンケート提出者347名

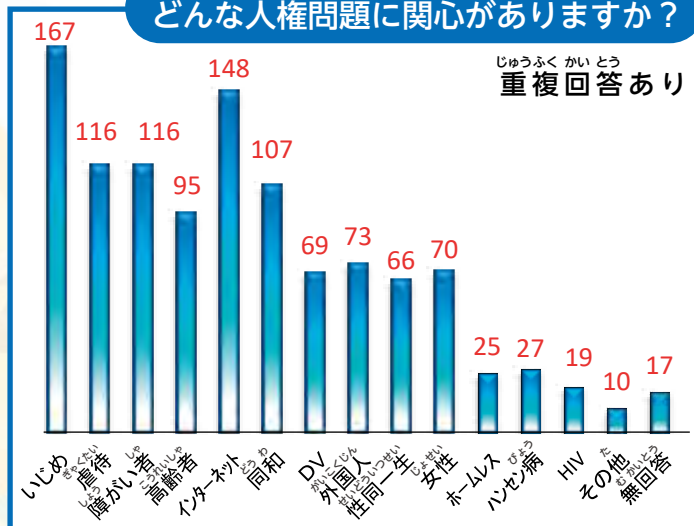
年代別参加者数



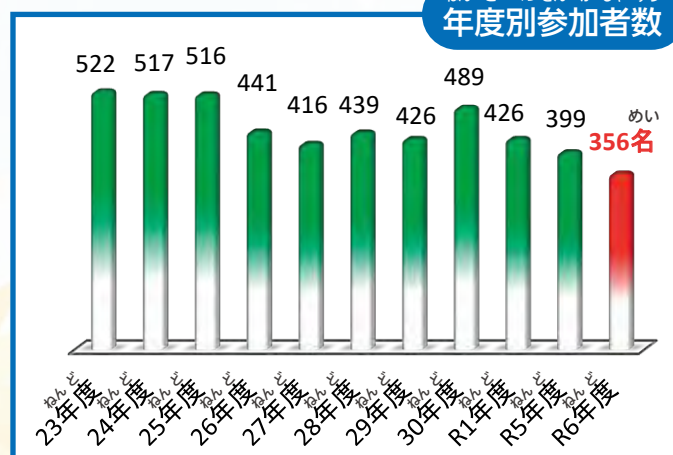
参加者数



どんな人権問題に関心がありますか？



年度別参加者数



～ 地域懇談会の感想 ～



一部紹介 ※可能な限り原文のまま掲載しています。

- 人間の手によって作られた差別、人間の手でなくせるはずという言葉が印象に残った。(70代)
- 懇談会に何回か参加しましたが、今回はいろんな意見が出て良かったです。推進員のまとめが良かったです。(70代)
- 種々の人権問題がある。概ね理解しているように見える。しかし、問題が自分の身近なものになればなるほど、その人の本質が見えてくるようである。だからこそ懇談会を今後も続けていく必要がある。継続は力なり！(60代)
- はじめは知らない人が多くなれば差別はなくなるのでは…と思っていましたが懇談会で話を聞いて、ネットや家族や親せきの誤った情報を信じないように学習し理解していくことの大切さが分かりました。改めて同和学習は必要なことなんだと考えが変わりました。(20代)
- いくら法律ができて、それぞれがお互いの違いを思いやる心を持って、同和問題に限らず互いの違いを受け入れ合える社会になるといいなと思いました。私もその気持ちを持って日々過ごしてゆきたいと思います。本日はありがとうございました。(40代)
- 同和問題に関して、今でも部落差別を気にする人がいて、意識する人がいることがわかりました。特に最近ではインターネットを使って誹謗中傷する人がいることを知って悲しい気持ちになりました。若い世代がこの問題に関心を持てば少しはこの問題も良い方向に進むのではないかと思います。(20代)

(3) 成果と課題

成果

昨年度同様に、市民講座とリンクした形で実施しました。年間を通して町民に対する啓発に繋がったと思います。アンケート中で、「どんな人権問題に関心がありますか」の問いにおいて、同和問題は昨年84名に対し107名の方が「関心がある」と回答しています。今回の地域懇談会を通して、町民の方々の同和問題への意識が確実に高くなってきているように感じます。



課題

- 懇談の中で同和問題をまだしているのか！だから参加が少ない！
- もう差別はないだろう、懇談をする必要があるのか！
- DVDのあらすじをチラシに載せているから同和問題と知って、自分には関係ないから参加していないのでは？

成果と課題からわかるように「同和問題」への関心度は上位にあるけど昨年度の「高齢者の人権」に比べ、同和問題は自分事として捉える人が少ないと感じられます。人権意識を高める活動を継続し、今以上に差別の問題について、正しく知ることが差別解消に向けた第一歩であるということを理解してもらえるよう啓発を続ける必要があります。今回も、地域懇談会の趣旨説明を行う際、令和元年に施行された「桂川町部落差別の解消の推進に関する条例」や「人権三法」を説明しましたが、時間の関係上内容までの説明が難しく、後日読んでいただくことになってしまいました。今後この条例の内容についても、様々な機会を通じて啓発する必要があると考えます。

「人権文化のまちづくり」を目指し、今後とも行政職員をはじめ、地域懇談会推進員が人権・同和問題を深く学べるように研修を充実する必要があります。また、関係機関と連携して取り組みを進めていくという認識を共有していきたいと思えます。

水平社創立102年の歴史

歴史的に人間の手で作られた差別に対して、明治4年に「解放令（太政官布告）」発布されましたが差別はなくなりませんでした。300年続いた身分制度の時代が紙切れ1枚でなくならなかったのは当然の結果でした。約50年経ち…大正11年、奈良県の若い人たち（阪本清一郎・駒井喜作・西光万吉）など柏原の三青年と燕会が立ち上がり、3月3日京都の岡崎公会堂で全国水平社創立大会が行われました。



燕会（全国水平社の前身となった団体）



全九州水平社創立大会記念写真

日本で最初の人権宣言とされ、水平社宣言が最後に『人の世に熱あれ、人間に光あれ』と読み上げられ盛り上がりの中、水平社が創立しました。初代の委員長は南梅吉氏です。大正12年5月1日全九州水平社（松本治一郎委員長）が創立、7月1日に飯塚町水平社（梅津高次郎委員長）が創立、大正13年6月1日に桂川村水平社が桂川小学校講堂にて創立しました。初代の委員長は二階堂慶太郎氏です。